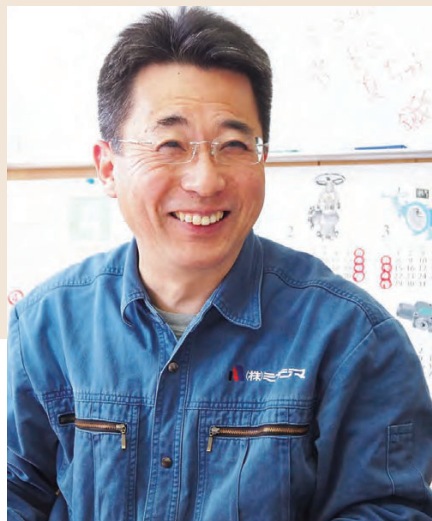


車両や産業機械を支える高品質・高耐久シャフトを独自の鍛造技術でつくり出す

車両や各種機械の部品のなかでも、ひとき大きな負荷がかかるシャフト。高い品質と耐久性が求められるなかで、株式会社ミヤジマは「アプセット鍛造」と呼ばれる特殊工法を専門としてシャフト製造を手掛け、鍛造から熱処理、機械加工までを一貫生産で行っている。強い力を伝えたり、人の命を運んだりする重要部品を扱ううえで、常に要求されるのは間違いないものづくり。品質向上のために中小企業としてはいち早くISO取得に取り組み、品質や安全に対する理念の社内共有や人材育成に力を注いでいる。

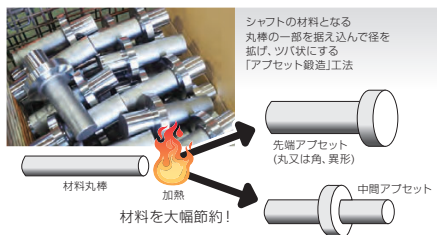
株式会社 ミヤジマ



代表取締役社長

みやじま せいいちろう

宮嶋 誠一郎さん



株式会社ミヤジマ

- 代表者/代表取締役社長 宮嶋誠一郎
- 従業員数/47名
- 住所/滋賀県犬上郡多賀町多賀1008
- 創業/1929年
- 業務内容/水道・船舶・産業用ゲートバルブの弁棒、建設機械・農業機械・運搬機械などの駆動軸、工作機械・織機機械の主軸などの鍛造・熱処理・機械加工
- TEL / 0749-48-0571
- URL / <http://miyajima-jp.com/>

※製造現場へのAI・IoT導入促進補助金

滋賀県内の製造施設においてAI・IoTを活用した仕組を構築し、経営の改善につながる取組を対象に、AI・IoT機器等の導入にかかる費用の一部を補助します。

アプセット鍛造の専門メーカーとして

— これまでの歩みをお聞かせください
創業者である私の祖父が鍛冶屋仕事を求めて長野県小谷村から彦根に出てきたのは昭和はじめの1929年。彦根の地場産業であるバルブの部品製造に関わるようになり、戦後の1954年に弁棒の鍛造工法で特許を取得しました。特許を取った工法とは、金型を組み合わせて材料の一部を握り込んで自在に径を伸ばす鍛造工法です。丸棒から削り出すより材料のロスが少なく、長いものやツバ径と軸の段差が大きいもの、高価な材料を使う場合などに大きなメリットが生まれます。金型が安価または不要な場合が多く、小ロットに対応しやすいため、この技術はまたたく間に各地で高く評価され、高度成長の時流に乗って大いに業績を伸ばしました。

— その後も順調に経営を?

しかし、平成に入っすぐ、私が26歳のときに家業を継ぐため戻ってきたころには、かなり厳しい経営状況にありました。職人の高齢化が進み、不良も多くクレーム対応に追われる毎日でした。二代目の父は私が戻るのにあわせて、工場をすべて現在の高賀へ集約してくれ、私はバルブだけでなく他の機械部品製造にも進出しはじめましたが、やる気のある若い人材はなかなか入社してくれませんでした。

1995年、そんな企業体質が最悪のあたりで噴出します。やっこの思いで獲得した大手建設機械メーカーの仕事で、シャフトが折れるという重大クレームが発生したのです。お客様に呼ばれて問いただされても、問題の不良品をいつ、だれが、どれだけ作ったのかわからない始末。長年の慣例や職人の勤に任せて、品質管理の2本柱である「トレーサビリティ」と「標準化」がまっ

たく疎かになっていた必然の結果といえます。

失敗から学んだ品質管理

— どのように挽回されたのでしょうか?

幸運だったのは、お客様が私たちを切り捨てるのではなく、品質保証の専門家を派遣し改善に乗り出してくださったことでした。要求は厳しいものでしたが、必死に食らいついたことが大きな転機になりました。

ちょうどそのころ、産業支援プラザの前身団体の一つである滋賀県工業技術振興協会主催のISOセミナーに参加する機会がありました。話を聞いてみるとISO取得に必要な項目は、クレーム発生以降、私たちが叩き込まれた品質管理の要求事項とほぼ同じです。しかし「ISOなど大手がやることだ」と、認証取得に父からも社員からも賛同が得られないなか、膨大な資料を前に孤立無援の手探り状態でした。そこで、産業支援プラザから紹介された専門家派遣制度を活用したところ、先生に「大企業と同じことをしようと背伸びせず、自分たちでできるルールを決めて文書化すればいい」と指導され、目からウロコが落ちる思いでした。

— 状況は変わりましたか?

2000年のISO9002認証取得後は売上も向上し始めました。鍛造企業は全国に約350社ありますが、アプセット鍛造に特化しているのは数社だけです。それを強みに現在では全国で年間約200社とお取引いただいています。

中小企業経営基盤・技術向上等研究会にも設立当初から参加し、大先輩の懐を借りてスタートした若手経営者の勉強会では、社員待遇や設備投資について意見交換しました。ときに決算書を見せ合いながら討論したことは私の貴重な財産になりました。

人材の確保と育成は滋賀の中小企業にとってどこも大きな課題です。品質や安全への意識を共有し、価値ある仕事をしているというやりがいを感じてもらえるよう、当社では社内報を15年にわたって毎月手作りして発行しています。また、働くうえで大切にしたいことを「ミヤジマism」という手帳にまとめ、朝礼で一項目ずつ読むことを続けています。社員の教育訓練体系を作成し、資格手当も取得したときだけでなく毎月支給、改善提案活動では毎月50〜60件、累計で9500件以上の提案が出るようになっていきます。



2006年から15年にわたって毎月発行し、今年3月で180号を数える社内報「IMJ通風」

— 今後の展望をお聞かせください

現在、社員の平均年齢は38歳で、若手、中堅、ベテランのバランスがうまくとれている状況です。若い社員がうちに入社したいという自分の友達を紹介してくれたのもうれしかったこの一つで、社員教育や福利厚生に力を入れてきてよかったと思った出来事でした。

技術を継承していくうえで、IoTにも力を入れており、産業支援プラザのIoT研究会に参画し、製造現場へのAI・IoT導入促進補助金※の採択を受けて、機器にセンサーを取り付け、人の五感などに頼っていた操作をデジタル解析して標準化に取り組んでいます。

鍛造はエネルギーを多く消費する産業のため、カーボンニュートラルに向けて知恵を絞って対応策を考えていかねばなりません。日本のものづくりを支える一企業として、社会や地域に貢献し、社員とその家族の幸せをこれからも考え続けていきたいと思っています。

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ
連携推進部 ものづくり支援課

☎077-511-1414

☎077-511-1418

✉shin@shigaplaza.or.jp